

# 吉田学園 中期計画 2025

学校法人 吉田学園

## 目 次

1	学園理念・建学の精神・教職員の使命	P3
2	中期計画で取り組む課題及びアプローチ	
3	中期計画の目的及び実施期間	P4
4	吉田学園の「5年後のありたい姿」	
5	吉田学園の「5年後のありたい姿」を実現するために、学園内の各部署グループ（大学・専門学校グループ・法人グループ）が設定する「5年後の部署グループのありたい姿・到達目標」	P5
6	中期財務計画	別紙

# 《 吉田学園 中期計画 2025 》

[名称] 2021年度から2025年度の5年にわたる計画であり、最終年度を、当学園及び各部署の「ありたい姿」のゴールと定めることから、名称を「吉田学園 中期計画 2025」とした。

## 1 学園理念・建学の精神・教職員の使命

### 【学園理念】

わが学園は、心の歴史に残る教育を通じて、自らの人格陶冶に努め、国際的視野に立つ個性ある人材を育成し、共に繁栄、超一流の学園を目指す。

### 【建学の精神】

「高度な職業人＝人財」の育成

豊かな人間性と基本的な生活習慣を基盤に、社会で必要とされる基礎学力、専門知識・技術、及び社会適応力を身につけた人材の育成。

### 【教職員の使命】

「使命感」

超一流の教育を通じ、五つの満足(\*)を達成し、豊かな心で接遇の出来る有為な人材を育成、国家社会に貢献する。

(\*)「五つの満足」

私たち吉田学園の教職員は、「学園理念」の具現化を目指し、一致協力のもと率先垂範して学生の教育に専念し、次の「五つの満足」を達成するよう全力をあげて努力します。

- 一. すぐれた教育実践の成果を受けて、吉田学園に入学してよかったと、一人一人の学生が満足する。
- 一. わが子が成長した姿に接して、吉田学園に入学してよかったと、保護者が満足する。
- 一. 教え子の進路達成を見届けて、吉田学園をすすめてよかったと、高校などの先生が満足する。
- 一. 心豊かで有為な人材を、吉田学園から受け入れてよかったと、就職先の企業などが満足する。
- 一. これらの満足を達成する努力をし、むくわれることにより、吉田学園で働いてよかったと、私たち自身が満足する。

## 2 中期計画で取り組む課題及びアプローチ

「教職員の使命」を基に、中期計画で取り組むべき課題及びアプローチを次のとおり定める。

(1) ICT 技術を高度に駆使した教育

(2) 労働人口減少問題の解決（量）

幅広い年齢層（生産年齢）の無業者や外国人を職業人として養成

### (3) 高度な専門職業人財を多数輩出（質）

働きながらキャリアアップを希望する社会人、高校卒業予定者、大学・短大卒業予定者、キャリアチェンジ希望者、外国人

### (4) 吉田学園グループの発展

☆キーワード：「synergy（相乗）」 「alliance（同盟、提携）」 「connection（繋がり）」

・今ある大学、専門学校群、保育園群、スポーツクラブを強力なコア事業としてさらに発展、経営基盤を強化

☆キーワード：「governance（統治・管理）」 「compliance（法令順守）」

「internal quality assurance（内部質保証）」

・ガバナンス、コンプライアンス、内部質保証による内外信用

## 3 中期計画の目的及び実施期間

### (1) 中期計画の目的

「吉田学園の課題及びアプローチ」を基に、「吉田学園の5年後のありたい姿」を明確にし、進むべき方向性を定め、教職員一丸となって実現すること。

### (2) 中期計画の実施期間

2021年度～2025年度（5年間）

## 4 吉田学園の「5年後のありたい姿」

### (1) 高度な教育手法の実現

ICTを駆使した高度な教育手法を取り入れ、学生を場所、時間から解放、かつ質の高い教育に向かって進展している。

### (2) 高度な職業人財の輩出

- ① グループ内で他に真似のできない高レベルの連携により、シナジー効果を発揮している。
- ② 無業者、社会人、キャリアチェンジ希望者、外国人など多様な人材を学生として多数受け入れ、有為な人材として輩出している。
- ③ 教育に関し不断の見直し・改善を行っている。
- ④ 上記などの推進により個々の学校の財務体質が強化している。

### (3) ガバナンス・コンプライアンス・内部質保証

組織運営につき不断の見直しを継続し、統治・管理、法令順守、内部質保証が向上している。

### (4) 常に研究・自己研鑽

教職員全員が、常に研究・自己研鑽に励み、教育・研究力、業務スキルが向上している。

### (5) 社会貢献・社会連携

教育・研究機能を、地域社会のために役立てている。

5 吉田学園の「5年後のありたい姿」を実現するために、学園内の各部署グループ（大学・専門学校グループ・法人グループ）が設定する「5年後の部署グループのありたい姿・到達目標」

各部署グループは、関係部署との連携を図りながら、下記に掲げる「到達目標」の達成に向け取り組む。年度毎に進捗状況を検証し、具体策の練り直しや方向修正など柔軟な対応により、「ありたい姿」を実現することとする。

**ありたい姿1 高度な教育手法の実現**

・ICTを駆使した高度な教育手法を取り入れ、学生を場所、時間から解放、かつ質の高い教育に向かって進展している。

大 専 法 別	ありたい姿 = (1) (2)・・・ 到達目標 = ① ②・・・	到達年度 (着手～到達)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
			(1年目)	(2年目)	(3年目)	(4年目)	(最終)
(取組期間を → または ↔ で示す。)							
大 学	(1) ICT化の推進により学修の習熟度向上が図られている。						
	①オンデマンド授業による学修の習熟度向上の促進	2021～2023			→		
	②学生のPC保持及び情報環境の整備	2021	→				
	③電子教科書等の導入の検討の促進	2021～2022		→			
専 学	(1) 各校においてICTを駆使した高度な教育手法の充実が図られている。						
	①学生のICT教育環境支援の構築・改善	2021～2025					→
	②学内のICT教育環境の整備・改善	2021～2025					→
	③教員・講師のICT教育に係る能力向上	2021～2025					→

**ありたい姿2 高度な職業人財の輩出**

- ・グループ内で他に真似のできない高レベルの連携により、シナジー効果を発揮している。
- ・無業者、社会人、キャリアチェンジ希望者、外国人など多様な人材を学生として多数受け入れ、有為な人材として輩出している。
- ・教育に関し不断の見直し・改善を行っている。
- ・上記などの推進により個々の学校の財務体質が強化している。

大 専 法 別	ありたい姿 = (1) (2)・・・ 到達目標 = ① ②・・・	到達年度 (着手～到達)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
			(1年目)	(2年目)	(3年目)	(4年目)	(最終)
(取組期間を → または ↔ で示す。)							
大 学	<b>(1) 建学の精神に基づき育成する具体的な人材像、これを実現する教育目標により保健医療専門職者養成が図られている。</b>						
	①実践力を備えた保健医療専門職者養成のための医療法人社団豊生会グループとの連携強化(例:札幌市東区の地域包括支援センターの共同運営、訪問看護ステーションでの協働者としての管理栄養士の位置の明確化、病院等での学生ボランティア活動の推進及び単位化等)	2021	→				
	②アセスメントポリシーの策定及び学修成果の測定・評価の実施	2021～2022	→	→	→		
	③教育の高度化に向けた看護学科・栄養学科共通専攻を有する大学院の新設の検討・実施	2021～2023	→	→	→		
	④新たな保健医療専門職者養成を目的とした新学科の検討・実施	2021～2023	→	→	→		
<b>(2) 教育改革の具体策と見通しにより教育課程の実質化が図られている。</b>							
<看護学科>	①指定規則の変更に伴う教育課程の改正・実施	2021	→				
	②教育課程改正に伴う3ポリシー(AP・CP・DP)の見直し	2021	→				
	③授業時間の十分な確保のための臨地実習時間の見直し、臨地実習先の新規開拓	2021～2022	→	→			
	④教員定数(34名)の確保及び教員組織の安定化	2021～2022	→	→			
<栄養学科>	⑤教育課程改正後の教育課程の実質化(特に3コース制の実質化)	2021～2024	→	→	→	→	

	⑥教員組織の若年教員への移行	2021	→				
	⑦レバンガ北海道との連携強化（スポーツと運動での非常勤講師、特別講師でのスポーツ選手の運動の実質把握、U-15選手及び親への栄養指導の定例化・レシピ開発等）	2021	→				
<b>(3) 学生支援の方策により学生支援の充実化が図られている。</b>							
	①学生生活満足度調査の実施・分析	2021、2024	↔			↔	
	②学生の心身の健康に対する支援としての学生相談室員の常駐化	2021～2022	→				
	③学生の心身の健康支援に係る協定医療機関（内科、心療内科、精神科等）の設置・契約	2021～2022	→				
	④経済的困窮学生に対する給付奨学金の充実	2021～2022	→				
	⑤学生の学籍異動（休退学、除籍、留年等）の調査・分析	2021	→				
	⑥学生の退学及び除籍率3.0%以内の達成	2021～2025	→				→
	⑦国家試験（看護師、保健師、管理栄養士）の合格率100%の達成	2021～2025	→				→
	⑧就職希望学生の就職率100%の達成	2021～2025	→				→
<b>(4) グローバル化として海外研修が行われている。</b>							
	①学生の海外研修の支援と実施	2021、2023、2025	↔			↔	↔
<b>(5) 財政基盤の安定化策により教育環境の整備が図られている。</b>							
	①栄養学科の入学定員の確保及び見直しの検討	2021～2023	→				
	②看護学科の入学定員の確保の継続	2021～2025	→				→
	③休退学者数の減少・抑制	2021～2025	→				→
	④授業料値上げの検討	2021～2023	→				

	⑤積極的な外部資金の獲得	2021～2025							→
	⑥大学部門経常収入に占める教育研究経費比率30%以上の継続的確保と維持	2021～2025							→
<b>(6) 教育環境整備計画の遂行により財政基盤の安定化が図られている。</b>									
《学習環境の整備と充実》									
	①教務システムの更新の検討	2021～2025							→
	②図書館の狭隘化に対する対策	2021～2025							→
	③各教室の機器(プロジェクター、PC等)の更新	2021～2022							→
	④大学農場の学習施設としての整備	2021～2022							→
	⑤校地取得の検討	2021～2025							→
	⑥通学バスの更新	2021、2023、2025	←→		←→			←→	→
	⑦学生の福利厚生施設の検討	2021～2025							→
《教育施設・設備の計画的な修繕等の実施》									
	⑧地下ピット内ポンプの更新(1、2、4号館)	2021、2022、2025	←→		←→			←→	→
	⑨トイレ器具の更新(1～4号館)	2022							→
	⑩照明器具のLED化(1～4号館)	2021							→
	⑪外壁の塗装補修(1～4号館)	2023～2025							→
	⑫屋上防水の補修(2号館)	2024							→
	⑬冷暖房設備の更新と熱源(灯油からLPGガス)の変更(2,4号館)	2021～2023							→
	⑭屋上キュービックの更新(1、2、4号館)	2022～2024							→



専学	<b>(1) 各校において教育のさらなる充実が図られている。</b>						
	①各校による「専門学校グループ教育基軸」の運用と見直し	2021～2025					→
	②行政や企業等社会が求める人材像を追究し、それに対応する教育システムの見直し及び再構築の実施	2021～2025					→
	③AP・CP・DPに基づく教育課程・教育体制の検証・改善	2021～2025					→
	<b>(2) 学生支援環境（教育・学生生活・就職支援等）の充実が図られている。</b>						
	①学科・学校間連携による教育資源の相互利用	2021～2025					→
	②施設・設備・教材の修繕による維持及び入替を含めた整備	2021～2025					→
	③多様な人材に応える学生支援環境の整備	2021～2025					→
	④卒業生、同窓会組織との連携強化による学生支援環境の整備	2021～2025					→
	⑤持続可能な学生支援と教育資源の充実	2022～2025					→
	<b>(3) 専門学校グループの教育活動収支差額が安定的に確保されている。</b>						
	①APに基づく適切な学生の入学及び財政基盤の安定化						
	ア.学生募集活動対象範囲の拡大（未就業者、社会人、キャリアチェンジ希望者、外国人など）	2021～2025					→
	イ.学生募集活動地域範囲の拡大（道外）	2021～2025					→
	②社会ニーズに合わせた学科構成の見直し	2021～2025					→
	③部門別教育活動収支差額が赤字である学校の黒字化への取組み	2021～2025					→

法人	(1) 事務業務効率化等により経費削減を推進し、財務強化がなされている。						
	①電子申告項目の精査等 電子申告が可能な項目の増加に伴う、電子申告による業務効率が期待できる項目の精査、実行	2021～2025					→
	②内部決裁処理の電子化 事務業務の効率化を目的とした内部決裁処理の電子化の実施	2021～2023				→	
	③既存契約の見直し等 業務の効率化及び経費圧縮を目的とした既存契約の改善・見直しの実施	2021～2025					→
全体	(1) 専学・大学・法人等グループ間での高レベルな連携によりシナジー効果を発揮している。						
	①アイデア、企画・試行、振返りを繰り返すことによる連携の強化(想定) ア.業務連携(統合・協働:効率化、情報の拡充) イ.教育連携 ウ.施設・設備・備品・教材の共用	2021～2025					→

ありたい姿3 ガバナンス・コンプライアンス・内部質保証

・組織運営につき不断の見直しを継続し、統治・管理、法令遵守、内部質保証が向上している。

大専法別	ありたい姿 = (1) (2)・・・ 到達目標 = ① ②・・・	到達年度 (着手～到達)	2021年度 (1年目)	2022年度 (2年目)	2023年度 (3年目)	2024年度 (4年目)	2025年度 (最終)
(取組期間を → または ↔ で示す。)							
大学	(1) 大学運営におけるガバナンスの強化が図られている。						
	①理事長の経営についての考えの浸透の推進	2021～2025					→

	②大学内の意思決定の順序性の確立	2021	→				
<b>(2) 法人・教学部門の積極的な情報公開が行われている。</b>							
《学校教育法施行規則第172条2項以外の有益な情報公開》							
	①授業評価アンケート結果	2021	→				
	②学生生活満足度調査結果	2021、2024	←→			←→	
	③外部資金獲得一覧	2021	→				
	④学事歴	2021	→				
<b>(3) 計画実現のためのPDCA体制の充実化が図られている。</b>							
	①PPDCAサイクルに基づく自己点検評価の充実と実施	2021～2025					→
	②ガバナンス・コードの評価の実施	2021～2025					→
	③大学の運営方針の評価の実施	2021～2025					→
	④日本高等教育評価機構による大学 機関別認証評価の受審	2024～2025				→	→
	⑤日本看護学教育評価機構による看護学教育評価の受審	2025					→
専学	<b>(1) 自己点検・評価及び学校関係者評価、第三者評価が充実し、それに基づく情報の公表内容も充実している。</b>						
	①自己点検・評価及び情報公表内容の充実	2021～2025					→
	②学校関係者評価委員会の評価及び教育課程編 成委員会における意見の教育活動への反映	2021～2025					→
	③第三者評価機関による受審	2023～2025					→
	④法令遵守を意識した情報開示への取組み	2021～2025					→

	<b>(2) 専門学校グループの業務の効率化が図られている。</b>						
	①業務マニュアルの制定	2021～2022					
	②業務マニュアルに基づく検証	2022～2025					
	③業務効率向上のためのさらなる見直し・改善（含システムリプレース）	2023～2025					
法人	<b>(1) 学園運営の一層の健全化に向け、組織ガバナンス体制が強化されている。</b>						
	①危機管理体制の整備 震災、新型コロナウイルスの発症等、予期せぬ事態に備えた危機管理体制の見直し	2022～2023					
	②重要規程に関する研修の実施 組織運営上、重要な規程規則に関する管理職層への研修の実施（決裁権限規程、稟議規程 他）	2021～2025					
	③組織運営に関わる書式の改定 業務引継の実効性を高めるための組織運営に関わる書式の改定（業務引継書 他）	2022～2024					
	<b>(2) 学園の信頼性・透明性が確保されている。</b>						
	①コンプライアンス規則の整備 根幹となる当学園におけるコンプライアンス基本規則の整備	2021～2022					
	②ハラスメント防止の推進 ハラスメントに関連する規程の改正及び教職員向け研修会の検討	2021～2025					
	③内部監査の充実 日常的な業務の正確性を期すことを目的とした内部監査体制の確立と計画性を持った内部監査の実施	2021～2025					
	<b>(3) 適切な意思決定及び情報共有がなされている。</b>						

	①適切な意思決定の定着化 回付稟議書の検証及び内部監査による、決裁権限規程、稟議規程等統治ルールに則った適切な意思決定の定着化	2021～2025							→
	②情報共有の定着化 稟議書の回付等を通じた、関係部署との適時適切な情報共有の定着化	2021～2025							→

#### ありたい姿4 常に研究・自己研鑽

・教職員全員が、常に研究・自己研鑽に励み、教育力・研究力・業務スキルが向上している。

大 専 法 別	ありたい姿 = (1) (2)・・・ 到達目標 = ① ②・・・	到達年度 (着手～到達)	2021年度 (1年目)	2022年度 (2年目)	2023年度 (3年目)	2024年度 (4年目)	2025年度 (最終)	
(取組期間を → または ↔ で示す。)								
大 学	(1) 教職員全員が、常に研究・自己研鑽に励み、教育・研究力、業務力の向上が図られている。							
	①教育・研究力の向上を図るためのFD活動の実施	2021～2025						→
	②大学運営等の充実化を図るためのSDの実施	2021～2025						→
専 学	(1) 教職員全員が、常に研究・自己研鑽に励み、教育・研究力、業務スキルが向上している。							
	①公開授業の充実化	2021～2025						→
	②専門学校教育研修会の充実化	2021～2025						→
	③学外SD・FD研修の受講、学内SD・FD研修の実施	2021～2025						→
	④研究・自己研鑽を図る計画的な研修の参加機会の確保	2021～2025						→

**ありたい姿5 社会貢献・社会連携**

・教育・研究機能を、地域社会のために役立てている。

大 専 法 別	ありたい姿 = (1) (2)・・・ 到達目標 = ① ②・・・	到達年度 (着手～到達)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
			(1年目)	(2年目)	(3年目)	(4年目)	(最終)
			(取組期間を → または ↔ で示す。)				
大 学	<b>(1) 地域・社会連携の推進が図られている。</b>						
《札幌市東区》							
	①5者(札幌市東区役所・札幌保健医療大学・北海道スポーツ専門学校・札幌大谷大学・天使大学)連携の推進	2021～2025					→
	②地域サロン開設の検討(高齢者、子育て中の保護者等が対象)	2021～2025					→
《医療法人社団豊生会グループ》							
	③連携協定に基づいた講師の相互派遣	2021	→				
	④予防接種の医療機関としての検討	2021	→				
	⑤臨地実習施設としての最大限の利用の検討	2021	→				
	⑥NPO法人ニルスの会との事業の推進(地域食堂、農場の共同運営、行事の相互参加等)	2021	→				
	⑦有限会社おいらーく所有のエルパサでの事業の補助(ウォーキングバスケットの発展・推進)	2021	→				
	⑧公開講座の実施	2021～2025					→
	⑨地元企業(池田食品、どんぐり等)との共同商品開発	2021	→				
	⑩さとらんど運営への協力(土日祝日催事時のレストラン運営)	2021	→				

専学	(1) 教育・研究機能を、地域社会のために役立てている。						
	①学生と社会がメリットを享受する活動の実施	2021～2025					→
	②リカレント教育の検証と見直し	2021～2025					→

＜中期財務計画（2021年度～2025年度）＞

年度			補正予算(2021.3.15審議案)			計画(2021.3.15理事会審議案)													
			2020年度補予	(うち大学)		2021年度	(うち大学)		2022年度	(うち大学)		2023年度	(うち大学)		2024年度	(うち大学)		2025年度	(うち大学)
科目	2019年度実績	2020年度実績	(うち大学)	(大・専・在籍数)	2021年度	(うち大学)	(大・専・在籍数)	2022年度	(うち大学)	(大・専・在籍数)	2023年度	(うち大学)	(大・専・在籍数)	2024年度	(うち大学)	(大・専・在籍数)	2025年度	(うち大学)	(大・専・在籍数)
学生数(5月1日時点の在籍人数)	2,620 (524・2,096)			2,596 (567・2,029)			2,673 (597・2,076)			2,768 (648・2,120)			2,803 (663・2,140)			2,823 (663・2,160)			2,851 (671・2,180)
教育活動収支	教育活動収入	学生生徒等納付金・手数料	3,150	3,102	828	3,292	888	3,390	919	3,433	932	3,457	952	3,492	961				
		寄付金・補助金	91	351	61	295	52	300	61	300	77	305	77	305	77				
		付随事業収入等	74	84	6	45	2	45	1	47	1	47	1	47	1				
		[教育活動収入] A	3,315	3,537	895	3,632	942	3,735	981	3,780	1,010	3,809	1,030	3,844	1,039				
	教育活動支出	人件費	1,715	1,768	542	1,820	570	1,856	579	1,879	584	1,892	588	1,910	593				
		教育研究経費	1,096	1,336	333	1,345	353	1,340	345	1,340	323	1,350	324	1,363	326				
		管理経費	429	381	88	440	78	445	84	450	84	450	84	455	84				
[教育活動支出] B	3,240	3,485	963	3,605	1,001	3,641	1,008	3,669	991	3,692	996	3,728	1,003						
【教育活動収支差額】(A-B)		75	52	-88	27	-59	94	-27	111	19	117	34	116	38					
教育活動外収支	教育活動外収入(受取利息) C	1	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0					
	教育活動外支出(借入利息) D	14	11	0	8	0	7	0	6	0	6	0	5	0					
	【教育活動外収支差額】(C-D)	-13	-10	0	-7	0	-6	0	-5	0	-5	0	-4	0					
経常収入(教育活動収入+教育外活動収入) (A+C)	3,316	3,538	895	3,633	942	3,736	981	3,781	1,010	3,810	1,030	3,845	1,039						
経常支出(教育活動支出+教育外活動支出) (B+D+E)	3,254	3,496	963	3,613	1,001	3,648	1,008	3,675	991	3,698	996	3,733	1,003						
経常収支差額(経常収入-経常支出) [(A+C)-(B+D+E)]	62	42	-68	20	-59	88	-27	106	19	112	34	112	38						

経常収支の計画。(特別収支及び予備費は対象から外す)

＜中期財務計画目標(各種比率)＞

	中計目標	補正予算(2021.3.15審議案)			計画(2021.3.15理事会審議案)											
		2019年度実績	2020年度補予	(うち大学)	2021年度	(うち大学)	2022年度	(うち大学)	2023年度	(うち大学)	2024年度	(うち大学)	2025年度	(うち大学)		
人件費比率(%) (人件費/経常収入)	51%以下	51.7%	50.0%	60.6%	50.1%	60.5%	49.7%	59.0%	49.7%	57.8%	49.7%	57.1%	49.7%	57.1%		
教育研究経費比率(%) (教育研究経費/経常収入)	35%以上	33.1%	37.8%	37.2%	37.0%	37.5%	35.9%	35.2%	35.4%	32.0%	35.4%	31.5%	35.4%	31.4%		
管理経費比率(%) (管理経費/経常収入)	12%以下	12.9%	10.8%	9.8%	12.1%	8.3%	11.9%	8.6%	11.9%	8.3%	11.8%	8.2%	11.8%	8.1%		

中計目標(比率)の参考指標：今日の私学財政(大学・短期大学編)(日本私立学校振興・共済事業団) 大学法人(医療系法人を除く)の令和元年度指標・・・人件費比率:54.5%、教育研究経費比率:34.4%、管理経費比率9.1% 当法人は専門学校8校の経営依存度高いことから、専門学校経営部分を比率目標に反映させた。

(\*) 「事業活動支出」は、[経常支出+特別支出]であるが、ここでは特別勘定を無視し、事業活動支出=経常支出とした。